

媒体名	電波新聞
掲載日	2015.1.13

帝人と関西大学が
人と大学の共同開発

着るだけで人の動き検出

新しい生地を共同開発

帝人と関西大学由實佳

用化を目指す。

郎教授は世界で初めて、
着用するだけで人の動き
を検出する生地を共同開
発した。2、3年先の実

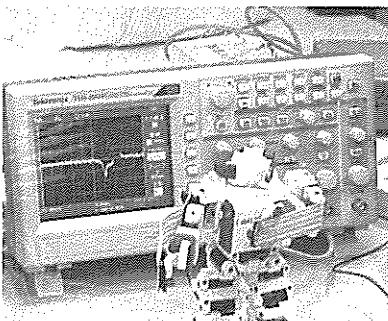
介護などの遠隔医療や、
伝統工芸などの職人技の
可視化も可能とするも
の。

圧電体としてはPZT
(チタン酸ジルコニア酸
鉛)が知られているが、
伸びても信号は発生しな
い。曲げる、伸ばす、ね
じるなどの複雑な運動を
検出するための工夫が必
要であった。

その解決に日本の和服
(着物)生地に使われる
織物技術を応用。横糸と
縦糸からなる平織物は
「曲げ動作」の検出に、
サテンは「ねじり」、綾
織物は「曲げ」「ねじ
り」に加え「ずり」など

圧電体には、サ
トウキビなどの植物から
得られるポリ乳酸と炭素
繊維を使用し

た生地で構成
される。人の
動きを正確に
検出する。信号と
して無線など
して無線など
て忠実に再現
することができる。
手術や



電気信号が発生する
と生地を曲げると
動きを正確に検出する
信号として無線など
して忠実に再現する
ことができる。手術や

12年、帝人と関西大学
はポリL乳酸とポリD酸
を積層することで圧電
性の優れたフィルムを共
同開発。この技術を応用

することを見いだした。

複雑な人の動作を正確

に検知するには、3次元

デジタルアニメーション

技術と織物の技術を合わ

せることで、圧電生地の
設計が可能となつた。

環境エネルギー・先端

素材事業推進班山本智義

氏は「快適な装着感、普

ていることを意識せず、

環境エネルギー・先端